



第1回かながわ感動介護大賞

～ ありがとうを届けたい ～

感動介護エピソード作品集

平成24年

かながわ感動介護大賞実行委員会



はじめに

高齢化社会の中で、介護を必要としている人はますます増加し、介護全般の理解が進むことにいつそう期待が高まっているところです。

介護を取りまく厳しい状況があり、介護保険制度の改善への働きかけ、人材確保の取組み、職員研修の実施等に努めているところですが、一方、介護現場はその分「人と人とのヒューマンサービス」、いわば人間ドラマがある「心温まるエピソード」にあふれた場です。

今回の受賞作品にもあるように、あの3・11の大震災の中でも、一生懸命介護をしていた方々がたくさんいらつしやいました。とりわけその様な状況では、介護を受けている人にとっては介護者は心の支えでもあるのです。

このかながわ感動介護大賞では、そういったエピソードを束ね、介護のイメージアップの取組みを強く推進し、安心して介護を受けられるかながわを築いていきたいと願っています。

介護の一層の理解が社会全体に進み、介護がみんなの笑顔を作り、そしてその笑顔、「介護文化」の定着を皆さんと力を合わせ、かながわの地から作っていただければと願っています。

かながわ感動介護大賞実行委員会委員長 篠原 正治

「かながわ感動介護大賞の取り組み」

急速に高齢化が進む中で、介護を必要とする方々が増加しております。その一方で、介護従事者の確保が厳しい状況にあります。

そこで、神奈川県では、介護現場でのマイナスイメージを払拭し、介護従事者の社会的な評価が向上するように、介護の仕事の素晴らしさをアピールするため、神奈川県発の「かながわ感動介護大賞」がありがとうを届けたいとを創設し、介護従事者の方々が誇りとやりがいを持って働けるよう、様々な取り組みにより応援することとしました。

☆ 感動介護エピソードの紹介・表彰

☆ みんなで届けよう！介護に「ありがとう」運動の普及

☆ サンクス（金太郎）バッジの贈呈（「ありがとうカード」の大量取得者）

☆ 「ありがとうカード」の感動事例の紹介

☆ 「笑顔で、ありがとう」フォトコンテストの優秀作品の紹介

目次

○ 受賞作品

最優秀賞	「食を忘れてしまった母の脳を 目覚めさせる介助法」	…… 1
優秀賞	「ヘルパーの長谷川さん」	…… 3
	「救いの言葉」	…… 5
	「介護員のやさしい言動で、 私は生きていく力が湧いた。」	…… 7
	「心のこもった介護」	…… 9
	「良い介護で寿命は伸びる!!」	…… 11
特別賞	「あの世とは（散文）」	…… 13

○ 佳作

	「笑顔をありがとう」	…… 15
	「入所して一番最初に感動したこと」	…… 16
	「先生と呼ばないで」	…… 17
	「ありがとうの数だけ 感動が生まれる。」	…… 18
	「会話」	…… 19
	「沢山の嬉しい事」	…… 20
	「心を救って下さりありがとう」	…… 21
	「ありがとう」	…… 22
	「よかったね、一人じゃないね」	…… 23
	「笑顔に感謝」	…… 24
	「明るく楽しいケア」	…… 25



感動介護を行った事業所 社会福祉法人 偕恵園 特別養護老人ホーム 椿寿

ある家族会の日に施設長がおっしゃった言葉「椿寿の入居者様は皆私達の家族です。」職員の方も笑顔で頷いていました。現在九十七歳の母が入居して七年、その間四度の危機がありました。食事も水分も摂れなくなりました。その時の職員の介助を見てとても驚きました。

まず、口を開ける様、頭を撫で、両手で肩を抱き、俯いている顔をそっと覗き名前を呼ぶ。

「僕の顔を見てごらん。少しだけお昼ご飯食べようか。ゆっくりで良いよ。」
顔を上げる母に

「顔を見てくれて有難う。美味しそうだね。口を開けてくれる？」
少し口を開けた母に、ほんの少しだけ口に入れる。

「もぐもぐして。ゆっくりで良いよ。上手だね。」

と繰り返す。やっと飲み込んだ母に、肩を抱き額と額を合わせて

「食べてくれて有難う。」

後ろで見ていた私の身体は硬直し、娘の私が何もできないことを恥ずかしく思い涙をこらえていました。最近も発熱し、食事が摂れなくなりました。体にとっても良いと言われているお猪口いっぱいの小豆あんこを出していただいたり、四苦八苦しなから、母が自力で食べれたときは、職員さんの喜ぶ声が廊下中に響



き渡りました。

きつとこのような介助で幾度も母が元気になったことを思い返しました。

「十分でも一時間でも一日でも長生きしていただくことが私達の仕事であり願いなのです。」

という施設長からの言葉をいただき、年老いた私達家族も元気に、明日を明るく楽しく頑張れるのです。

「母さん頑張れ頑張れ。」

心から、感謝、感謝、有難うございます。

▽講評△

高齢のために嚙下機能が衰えていく現実と、難しい食事介助のエピソードから、介護職員による介護の手順や動作、気遣いまでもが伝わってくる作品でした。

人生の最後の時期を、価値ある日々として送れるよう支援することも介護の使命です。

そして、施設長を中心に介護の目的に向かって努力する介護職員の思いを、母親への介護をとおして感じ取った、家族の方の率直な感動と感謝の思いが伝わってきました。

感動介護を行った職員 医療法人社団 景翠会 けいすいケアセンター 文庫西口

長谷川 郁枝 さん（介護職員）

主人は二十年前脳梗塞を患い他の病気も色々出て認知症も入り、内科リハビリ等病院通いをしていました。六年前も心筋梗塞と肺炎になり胃ろうをすることになりました。

その頃よりデイサービス、ショートステイ、週二回のヘルパー、週一回の訪問看護師さんに手伝ってもらい、生活を維持していました。その内の一日（金曜日）午後四時二十分より五時十九分迄デイサービスの帰る時間に合わせて来てもらい着替、トイレ、お三時を食べさせてベッドに寝かせて私の帰りを待っていてくれた長谷川さんと云うヘルパーさんがいて主人はとても頼りにして、デイサービスの朝は何度も長谷川さんが来るか聞いて出て行きました。

三月十一日（金）東日本大震災の当日、私は出先よりすぐに帰りましたが家まで車で二十分位の所です。が途中携帯も通じず、停電で信号機も動かず、知っている限りの裏道を探して二時間半もかかり家に辿り着きました。

介護五の主人がどうしているか気掛かりでしたがどうしようもなくなんとかベッドで寝ていてくれればと祈りながら家に入ると真つ暗な中にヘルパーの長谷川さんが主人を「一人にして帰れなかった」と云って側にいてくださった。

私はホットして有難く涙が出ました。主人も安心していた様子でした。やさしいヘルパーさんのお陰で二十年間の介護でしたが今月九月八日八十二才で亡くなりました。

今に思えば長い介護大変なこともありましたができるだけ前向きに楽しく過ごす様に心掛けました。



▽講評△

応募者の中で、唯一東日本震災時のヘルパーさんの緊急対応が記載された作品です。緊急時の見守りの範囲も話題になりましたが、要介護5の病人が不安の中で、ヘルパーさんと無事に待っていてくれたことの安堵感はまさに感動だったこと、日ごろの信頼関係―命綱のような存在のヘルパーさんという点を評価いたしました。

ヘルパーさんと事業所との信頼もまた厚いと見たのです。

感動介護を行った職員 有限会社 メロウクラブ 居宅介護支援

野村 誠子 さん（ケアマネジャー）

「金子さんはよく頑張っている。だから、自分を責めないで。」

「介護する人が笑顔でいることが大切。」

父の介護に行き詰まり、暗い顔の私をケアマネジャーの野村さんは、絶えず励まし続けてくれた。

野村さんと出会った頃は、仕事をしながら母の入院の世話、要介護四の父の自宅介護と、心身ともに疲労は極限に達していた。介護の甲斐あつて寝たきりの父の病状が少しずつ良くなっていった反面、認知症は進んでいった。仕事から疲れて帰宅しても、父の介護が待っていた。

ある時は、部屋中に異臭が充満して、その中で、おしめを外し、片手に自分の便を持ち、途方に暮れている父がいたり、またある時は、自分の小便だまりの中で幼子のようにびちゃびちゃと足踏みしていたりと、毎日、びつくりすることが起こった。

その度に疲れた体をひきずって後片付けするのだが、父も一緒になって片付けてくれようとして、かえってきれいにした所をまた汚していく。思わず、「静かに座っていて。」と声を荒げてしまう。そんな自分に対する嫌悪感。父も父なりに頑張っているのがわかるだけに辛かった。

世間では、介護の美談ばかりが報じられる中、日々の介護に悩み、疲れ、自分をダメ人間だと責めてい

る私を、野村さんの言葉は、癒し勇氣づけてくれた。

私が、介護から逃げずに頑張ってこれたのは、野村さんの言葉があったからだと思っている。



▽講評△

仕事をしながら介護をつづける中で、疲れた体をひきずって頑張っても、厳しい言葉を父にぶつけてしまうという状況はどんなにか辛いことでしょうか。

しかし、一緒に片付けてくれる父を父なりに頑張っていると感ずるご家族のやさしさを、野村さんはしっかり捉えているのでしょうか。

ご家族の力を引きだし後押しするケアマネジャーの大切な役割がよく表れている作品だと思います。

感動介護を行った職員 社会福祉法人 輝星会 ケアハウス星

石川 政子 さん（介護職員）

夫婦でケアハウスへ入所して、三年半すぎました。無口な夫と社交苦手な私は、当初不安だらけでした。最近、ようやく外出から戻ると、我家へ帰って来たのだなあと実感できるようになりました。

入所した年の暮、夫は認知症と診断され翌年、ケアマネさんの勧めで週二回デイサービスへ通うようになりました。

ハウスの最古参者職員の石川様は柔軟な心の持主です。苦情・心配事等、

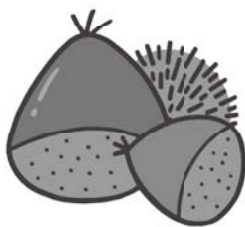
どんな話にも耳を傾けてくださいます。

年間行事の一つである、お盆の迎え火、送り火、そして季節感溢れる茹栗、

茗荷のミジン切りを希望者のお椀に差し入れる等気配り名人です。

また、聴力の落ちた私のために、多忙をさいて電話増幅器の機種や、売場を探してくださいと、こうした事柄は、入所者全員へ公平に対応しておられること、やぶさかでないと思います。

ある日のできごとです。九十歳すぎた、つゆ子さんが自動販売機の前へ、腰を落としており、男女二人の職員さんが懸命に起こそうと頑張っておられました。その時、偶然石川様が階段を上ってこられ、この現状を素早く察知し、つゆ子さんの背後から両手を廻されると、あつというまに抱き起こされたのです。



私は思わず「すごい！どこにそんな力が…」と口走りました。

石川様は「これが私の仕事ですから…」とさり気なく、おっしゃり事務室へ入られました。

私達には家族はなく、よる年波で体に不具合が生じ、買物や調理に事欠く有様になりました。主人は膀胱癌、私は頸椎背髄変形で病院と縁が切れません。主人の認知症は大変な病気だ、介護する人の態度で悪化する等々が耳に入り、私の病氣と重なって、八方塞がり心中を考えました。退所も考え、ケアマネ様や石川様へ、大変、迷惑をおかけしました。

今はすっかり悲しみも薄れ、今が一番と思い直し、毎日、病氣はあるが、心迄病氣にならないよう努力・修行中の身です。ある本に「強くなければ生きられない。優しさがなければ人間の資格なし」と。残る人生を楽しむために運を天にまかせていく決心しております。

▽講評△

介護職として大変な日々の業務を、さらりとこなしている様子がとても新鮮に映り、またそんな気持ちも、利用者としてくみ取って下さった文章表現が評価に値すると思います。

「これが私の仕事ですから」という言葉が自然に出てくることに、評価者一同新鮮みを覚ええました。介護職としてのプロ意識を感じさせる一編として、評価したいと思います。

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 道志会

(特別養護老人ホーム)

母が綾瀬市の施設に、お世話になったのは要介護三で足腰が衰え車椅子の使用を始めた頃だが、それまでは病気知らずで、すこぶる元気だった。

しかし、急性肺炎で入院し、危篤に陥り医学的には回復の見込みがないと言われて退院を促された。戦前戦後の混乱期をさんざんに辛酸をなめながら歩んできた人生は、このまま黄泉の世界への旅立ちかと思うと哀れで涙が止まらなかった。

「特養は患者の受入れは難しい」とのこと、介護療養型医療施設を捜したが何処も満床でした。在宅介護は環境面が不安で途方に暮れた。施設では、私達家族の心情を察して、開園以来はじめての看取り介護を採用していただくことになり「藁をも掴む」の気持ちで継ることにした。

介護士、看護師、栄養士、相談員、医師らによる多職種協働体制によって、日夜きめ細やかで手厚い介護が四カ月も続けられた。嚥下力が衰え栄養補給がままならず、枯れ枝の如くやせ細った手足になってしまったが、奇跡的にも、三カ月目には大好きな「ぜんざい」を欲しがり、口に入れてやると、満面の笑顔で「ああおいしい」と感嘆の言葉が返ってきた。その笑顔は一歳四ヶ月になる双子の孫と重なり感動した。医療から見放された母は温かい介護の手に支えられて、穏やかな日々を過ごし四年後。紫雲に乗り九十七歳で西方浄土へ旅立った。

顧みて介護に携わった皆さん！心から感謝します。施設の原動力である介護職員は皆明るく仕事への取り組みもマジメで好感がもてます。



▽講評△

元氣だった親の老いや病を目の当たりにし、子としては現実を受け容れ難いものです。ご家族は将来の道標を失い、失望されたことと思います。ご家族の思いを受け止め、看取り介護を初めて行うことは、施設の勇氣ある決断である一方、不安も大きかった筈です。「ぜんざい」を口にした満面の笑顔、感嘆の言葉がご家族と同様に、施設職員にとつても、介護の可能性を引き出し自信や励みにつながり、大きな感動となったことでしょう。

感動介護を行った職員 有限会社 ダーム ダームメディカルケアサービス つきみ野

日暮 学 さん（介護職員）

ヘルパーさんは職人さんだ。介護福祉士の日暮さんの介護をする姿を初めてみたとき、私はそう思った。オムツ交換をする姿、父を車椅子に移乗する姿、どれをとっても美しい。そして何よりも安心感がある。職人の姿だ。

六十歳でくも膜下出血で倒れ、十ヶ月間意識が出ず「植物状態も否めない」そう医者から言われた。その父も現在七十五歳だ。奇跡的に父の意識が戻り三年の入院生活のち在宅生活を始めてから今年で十二年目を迎える。左上下肢麻痺、右下肢麻痺の後遺症が残った。要介護五。オムツ使用全介助。言語障害も残り、発語がわずか。そんな父がずっと口から食事をつづけ、無理だと言われていたが優秀なヘルパーさん達のおかげで食事摂取し、ここまで来れた。

食事介助というのは、誰もができるわけじゃない。誤嚥をしないよう注意深い観察が必要だ。十二年前病院では口からは食事は無理と言われ胃ろうをすすめられた。ダメ元で在宅に戻った。技術のある介護福祉士のヘルパーさんに出会ったおかげで、口からの摂取に成功した。

医師である私も、父の介護をするヘルパーさん達に出会って介護力がいかに大切か学ばせても

らった。

「良い介護で寿命はのびる！」

心のこもった介護、きめ細やかな介護、そして極めた介護

(日暮さんは初代男性介護福祉士介護職歴 二十二年)のおかげで今も父は健在だ！
父を支え続けてきた日暮さんを筆頭にヘルパーさん達に「ありがとう」と伝えたい。



▽講評△

医師という専門職の方が医療では無理だと言われた在宅での介護について、献身的な介護福祉士の実践を評価してくれた気持ちが大いに表わされていると思います。

また、女性が多い介護職の中で、男性介護職として長きにわたって実践を積み重ねていることについての敬意の気持ちですが、文章から感じられました。

特別賞

「あの世とは（散文）」

宍戸 美津子 様

感動介護を行った職員 社会福祉法人 照陽会

特別養護老人ホーム みんなと暮らす町

小林 新吾 さん（介護職員）

特養に入居して5年弱、とある眠れない夜。夜勤の小林さんとのやり取りを以下の散文にしたためました。

「あの世とは」 ししど みつこ

いつもやさしい職員の小林さん

夜勤の時「小林さん あの世とは
どんな所でしょうか」と私がききました

小林さんの返事

「あの世に行った人

この世に一人も

帰ってこないのは



とても楽しい
ところでしょう」と

私そう思えばそうなんだと思ったら
急におかしくなって笑いがとまりません

床についてもあの

小林さんの洒脱な言葉に

感心しながらねむりました

洒脱とはさっぱりしていること

▽講評△

この作品は、多数の応募作品の中で審査員を驚かせる異色のものでした。

少ない言葉ながら、状況をありありと思い浮かべることができ、読み終わった人それぞれに余韻を残すすばらしい作品だと思います。

あの世とは？という問いかけへの見事な答えは、その夜の眠りを快適なものにすっかり変えてしまいうれしさをもち、介護の難しさそしてすばらしさを一瞬にして語ってくれている気がします。

佳 作 「笑顔をありがとう」

車谷 省三 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 清琉会

介護老人福祉施設 玉川グリーンホーム

私は自宅で一人で暮らしています。

以前は何不自由なく生活していましたが、今は介護のサービスを利用しています。

今でも自分でできるとの思いもありますが、体の調子の悪いときや転んでしまい起き上がれない時はヘルパーの訪問がうれしく感じています。

生活全般のことも、きれいでない仕事もいやな顔をせずに片付けてくれて頼もしい存在です。話すことも楽しみですが毎日かならず来てくれるというところで安心感も大きいです。

毎朝玄関のチャイムが鳴り、「おはようございます」の呼びかけに對し、大きな声で「おはよう」と返事するのが一日のスタートになっています。

「九月十七日に地区の敬老祝賀会のお知らせがありますよ。出かけませんか？」との呼びかけに「出かけられないからいいよ。」と答えたが、ケアマネに伝えて、当日敬老会に参加でき楽しい時間を過ごすことができ、自由に外出できない今はケアマネの配慮がともうれしく、機会があったらまた外出したいと思っている。

いろいろなサービスを利用しているが、何かあるとケアマネに伝えてくれ、連携して毎日の生活を過ごしやすいしてくれているので安心して生活している。

毎日、夕刻に笑顔と共に配食弁当が届き配達職員との会話もとても楽しみです。

弁当を配達する時に、常に私の安否を気遣ってくれているのだなあと感じており、日頃の感謝をこめて大きな声で「ありがとう。」と感謝の言葉を伝えるようにしています。

できるだけ自宅での生活を続けたいと思っています。

佳作

「入所して一番最初に

感動したこと」

松嶋 美登里 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 八寿会

地域密着型小規模特別養護老人ホーム

みどりの園鶴沼

Aさん

私は変形性脊椎症、骨粗鬆症で腰が非常に悪く、障がい者一級で、立てない、歩けない身体で、便をする時、ベッドの横のポータブルトイレに職員の方が、だいて、腰かけさせてするのです。その時、いつものようにしたつもりでしたが、なぜかパンツを、下げずに、腰かけてしまったので、便が全部パンツの中に入ってしまったのです。

職員の方は、何も言わずに、パンツを脱がせて、

あたたかい布で、おしりを拭き、

新しいパンツに、はきかえらせて、ベッドに寝かせて、

便の入ったパンツを何も言わずに風呂場に持って行き、

少したつて帰って来たので「大変でしたね。」と言ったら

「よい便でしたよ」と言った。

その手早さ、ありがとうと言おうとしたら、

「又、何かあったら、すぐよんでね。お大事に」と言つて帰られました。

私は、その時の、その職員の手早さ、やさしさ、心の深さ等、

ありがたく感謝の一言につきると思いました。

感動介護を行った職員

有限会社 伸栄工機製作所

コミュニティハウスのり

Y さん

私達はその方を最後迄「先生」と呼びびしてお継りして参りました。

Y先生。「Yと呼んでください。先生ではありませんから。」彼女の口癖でした。

彼女との出会いは母が大腿骨を骨折、リハビリ病院の退院が決まったときでした。

お目にかかったこともないのに、初めて電話を頂いた折、機関銃の様に、心の内をお話したことを忘れません。きっと心が折れそうだったので。

父母の最晩年を共に暮らす為に、同居したのに思うようにいかず、しばしばぶつかりました。親の老いを認めたくない私と、父母には子供時代の娘しか

いないのでした。

「困ったらいつでも電話して!!」と言われ、軽自動車を飛ばして夜八時過ぎにすったもんだの現場に来てくださったこともありました。

渋る二人を同じデイサービスに送り出し、みんながうまくいく為に「お試し」とショートステイを勧めてくださいました。いつも横になっていたがる母には、腰掛けて足の運動を日課にと、スケジュール表も作ってくださいました。

母を茶毘にふす間に倒れて十二指腸の緊急手術、入院した父を見舞ってください「守夫さん、いかがですか。」との問いかけに「お名前は忘れましたが大変お世話になった先生です。」と父は答えました。思い返せば、たった九ヶ月の日々でしたが、寄り添ってくださった時間は私にとって何十年でもあったように感じられます。

私達だけのY先生であつたはずは無いのですが、いつも見つめて守り導いていただいたのです。

佳作

「ありがとうの数だけ

感動が生まれる。」

太田 律子 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 くすのき

特別養護老人ホーム メイサムホール

A さん

N さん

「私のこの一年を祖母の為に使いたいです。涙ながらにそう訴えた私の話を、黙って受け止めて下さった介護士Nさん。」

私の「家族の気持ちになって欲しい。」この想いを真摯に受け止めて下さった介護士Aさん。お二人に心からの「ありがとう」を。

ありがとうの数だけ感動が生まれ、それがより良い介護に繋がる。これを教えて下さったのが祖母の介護に関わる介護士の方々である。

七月、八十九歳の祖母が特養に入所をした。私の

想いは正直、複雑だった。高校から社会福祉コースの学校へ進学し、大学と七年間勉強して来た私は祖母への想いが人一倍だからである。

入所してこの二ヶ月、やはり自分の想いと施設の現実には悩み泣きもした。そんな私に真摯に向き合って下さったのがNさん、Aさんだった。

二人の姿に私は心打たれた。業務に追われる中、家族の話に耳を傾ける時間を作るのがどんなに大変か、私には身をもって分かるからである。

私以外にも、「祖母のことをこんなに真剣に考え、想ってくれている人がいる」そう想った瞬間、心が温かくなり、そこにも感動を味わう事が出来た。

「介護」ときくと、明るいイメージを持っている人は少ないだろう。でも私はそうは思わない。介護は大変かも知れないが、その分やりがいがあり、沢山の感動と出会いを味わえるものと私は叫びたい。私は今怪我で退職したが、また介護の現場に戻りたい。

そう教えてくれた介護士さんと祖母に心からの「ありがとう。」

感動介護を行った事業所

リハビリストホーム港南台

リハビリストホームに通い始めて早五ヶ月が過ぎました。

脊椎狭窄手術で入院七ヶ月、退院した時は一人で歩けない車椅子生活でしたが、ケアマネさんの「いいリハビリ専門施設ができたヨ」の一声で老妻と見学、即通所契約をしました。なぜならば、その時期の私は唯々歩けるようになりたい一心でしたから。

主治医からは無理な運動は禁止され、焦らずにと何度も念を押されました。しかし、当時の私は転倒して再起不能になろうとも、それは自分の運命だと覚悟し、例え寝たきりになって家族により負担をかけたとしても、私は歩く願望を押え切れませんでした。

ハラハラしながら見守る家内を横目に、注意深く

教えられたリハビリメニューを消化して行きました。リハビリストの皆様の親身のご指導で体力が見る見る回復して行く自分に生きる喜びを感じている毎日です。

その中で痛切に思うことは仲間との会話です。

私も難聴で時々ハア？エツ？何？と聞き返すことが多くなりました。

八代亜紀は「舟歌」で女は無口な人がいい……と歌っています。たしかに情緒か魅力が漂う雰囲気ではありますが、今の私には会話が生きることにそのものです。

施設のスタッフは大きな声でハキハキと話してくれます。（それでも聞きとれないことあり。）

センター長の豪快な笑い声で全てが理解できたかの様に錯覚するのが、又可笑しい。

自分の体力一杯の運動量をこなした帰路の車内で気怠い心地良さが全身を覆ってきます。

私の車椅子は玄関でほこりをかぶって主を待っています。

佳作

「沢山の嬉しい事」

田辺 裕美 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 横浜社会福祉協会

特別養護老人ホーム 新山下ホーム

病気に伴う嚥下障害でやむなく経管摂取となり、体力も気力も落ちていた母は、施設でお世話になる事になりました。

病院の医師から「進行性の病気ですから良くて現状維持です。」と告げられていましたが、どうしても口から食べたいと願う母に、看護師の皆様から「その一口が命の危険に繋がる可能性があるから。」と母を思っ下さるが故の厳しい言葉を頂きましたが、母と私達家族の強い願いに耳を傾けて頂き、ゼリー一口から慎重に食べる事への取り組みを始めて下さいました。

細かい計画を立て、食べる前に嚥下体操をし、一口一口を傍で見守って下さり、現在お昼はミキサー

食で一品は刻み食が食べられる様になりました。

「お風呂に入る事も、ボランティアの方と歌う事も、全部がリハビリになりますからね。」と看護師の方から伺う中、様々なイベントやレクリエーションに声を掛けて頂き、入所当時は一人で歩く事が出来ませんでした。現在はベッドの周りを歩く事が出来ます。

以前は服など構わずにいましたが、自ら服を選び口紅を塗り、お洒落を楽しむ様になりました。

表情が乏しかった母ですが、笑顔の写真が増えた事が、何より嬉しく思っています。

母がここまで回復したのは、ホームの皆様の日々の温かい介護のお陰に他なりません。

もつと元気になりたいと願う母は、人生で今が一番意欲的かもしれません。

医師の診断を乗り越え、ゆっくりですが現在も母の回復は進行中です。

佳作

「心を救って下さりありがとうございます」

岩倉 善子 様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 八寿会

地域密着型小規模特別養護老人ホーム

みどりの園 鶴沼

75才で脳出血で倒れすべてが障がい者となり、病院を出され介護施設へ入る事になり、経験のない場所だけに、主人の身体の心配以上の苦しみがありました。

でも介護職員の方が色々な声をかけて下さる事で、自分の心が軽くなる事をまず感じました。

全く目も開けようとしれない、言葉も出さなくなっていました主人でしたが、職員の介護士さん、看護師さんが私に「目を開けられた時は、声は出せなくても表情で優しく話して下さいますよ」と聞かされた時、優しい主人でしただけに、私の心も嬉しく救われたのです。

夏祭りを行事として下さいました時には、太鼓の音色に故郷を思い出す事が出来たのか、いつも閉じていた目を生き生きとした大きな目を開いてくれたのです。

全く自分の意志で身体を動かす事のできない大変な主人をお風呂に入れて下さったり、おむつを取替えて下さったり、それだけでも大変ですのに、それも優しく主人に接して下さいている姿に感謝でしたのに、その上、夏祭り、九月には敬老会とあり、敬老会には、主人はすぐに元気に動ける人になると思いい、施設へ持って行きクローゼットに入れたままになっていました背広を大変な主人に着せて下さっていて、妻である私にとりましては、涙がでるほどの感謝でした。

この様な優しい職員の方にお世話をいただいて、元の身体になれない主人はかわいそうです。日本でこの施設へ入れていただいた事は、主人も私も幸せな人間だと感謝の毎日です。

佳作

「ありがとう」

匿名希望

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 小田原福祉会

潤生園やすらぎの家 栢山

「今日は一日有難う御座いました。」デイスリーブの帰りのご挨拶です。

私達の一挙一動を一口見守って下さり、私達が感謝なのにと、或る時、職員さんに尋ねた所、皆様のお陰で今日一日働かせて頂いた感謝の気持ちとお答頂き其の様な謙虚なお気持ちに感激いたしました。大雨で川の水が溢れ交通止めで帰宅出来ず、心細い思いの時も心配しないでと励まして寄り添って頂いた事、又今年の大雪の日、朝起きたらドスンと大きな音、びっくりして窓の外を見ると大雪、車が通れるかと心配。電話しようか迷って居ると、お迎えにと職員さん、積雪で脇道は大変。

幹線道路にでるとノロノロと車の渋滞。無事を祈

りつつ前方に目をこらして進み、ややあつて脇道に入ると車の通りも少ない為、車底がゴトゴトと大きな音。

大丈夫かしらと思いつつも、脇道で心に余裕もでき、沿道の木々の様々な造形美に見とれ、

わっ!!写真に撮りたい。

影絵がいいな等、

美しい雪景に見とれ、坂道を下り、竹林が、雪のトンネルを作り素晴らしく、職員さんの雪道での大変なご苦労も忘れ、しばし銀世界の美に浸り、平常の時間をオーバーして、ホームに到着。

安堵いたしました。どんな時にも冷静に対処して下さる職員さんに、安らぎ心の洗濯のできるホーム。其の様に楽しく安まるホームも、職員さんのお氣遣い、安全をと何時も見守って下さる職員様方の並々ならぬ御苦労に感謝しつつ過ごす日です。

“ありがとう”

佳作

「よかったね、一人じゃないね」

匿名希望

感動介護を行った事業所

社会福祉法人 小田原福祉会

潤生園やすらぎの家 田島

昨年の5月、私の妻は要介護1の判定を受けてデイに通い始めました。

当初は毎日が新鮮で楽しい通所でした。

それもそのはず、通所までの3年間は私の帰りだけを待つさみしい日々を送っていましたので、自分の居場所を見つけて、やっとホッとしましたようでした。毎日毎日が笑顔の生活になり、私も仕事に専念できるとなりました。

数か月はそれなりに安定した日常を送ることができましたが、通所から半年が経過するころにはデイでの団体生活の中で心のすれちがいや気の合う人、合わない人等、人との触れ合いに苦慮する場面が見え始めました。

不安な気持ちと不安定な心は常に揺れていて些細な言動や行動にすごく敏感です。

そんな時、デイのスタッフは即反応してくれました。

問題となる事柄から妻を切り離す等、速やかに対応してくれたのです。

また、気の合う仲間の方に差し向けてくれたり、不機嫌になっっている妻と向き合っって話を聞いてくれます。

常日頃から私も妻の不安、不安定には心を痛めていますので、「連絡帳」を読みスタッフとのコミュニケーション等からデイでの生活を垣間見ることができます。

そんなデイが有るおかげで私は引き続き仕事に通うことができ、家庭を守ることができています。

本当に感謝しています。

現在では要介護3となり、益々手のかかる妻ではありますが、私の今日が有るのも長年最良のパートナーとして私を支えてくれたからこそ、と思いつつ潤生園田島に送り出しています。

佳作

「笑顔に感謝」

松位 福美 様

感動介護を行った事業所

株式会社 サロンデイ サロンデイ新羽

ある日、何十年ぶりに母からの封書が私の自宅に届きました。

脑梗塞を患い、手にもまひが残る母にとって文字を書くことは、苦手なことのひとつです。

たとえどしいながら、一文字一文字を懸命に書いてくれていました。

その中身は、短い残暑見舞いと「面倒をかけるがぜひ書いてほしい」という、こちらの応募用紙が同封されていたのです！

手紙だけでは足りないと思っただけか、わざわざ電話もあり、通所している「サロンデイ」さんの話をやや興奮気味に話してくれました。

母がこの春から通所を決めたのは、運動不足や老化による足腰の衰えを少しでも食い止め、元気でい

たいという気持ちからでしょうが、もう一つは昨年病気を患い入院し、今でも治療中の私に、自分のことで、余計な心配や世話をかけたくないと言う思いがあったのでしょうか。

デイサービスにも行ったことが無い母に、続くかどうか不安もありましたが、毎週かける電話の向こうの母の声は、毎回元氣もあり順調そうで一安心。

母によると、所長の渡部さんをはじめ、そのスタッフの方も感じがよく、明るくて、とにかく笑顔がいいとのこと。

運動も苦手でマヒもあるため、簡単な体操もうまく出来ず、恥ずかしかったらしいのですが、何度も同じ失敗をしても、注意されたりするようなこともなく、優しい笑顔で対応してもらえ、だんだん通所することが楽しくなってきたそうです。

今では、週二回の通所が大きな張り合いになっているとのこと。

私にとってもありがたく、嬉しいことです。母が、一日でも元気で居てくれるよう願っています。皆さんに感謝をこめて。

感動介護を行った事業所

株式会社 サロンデイ

サロンデイウエルハイム下九沢

今日も送迎車が着くと職員の方が笑顔で転倒しないように手を取って手際良く靴の履きかえ場所に案内してくれました。今日のコースの始まりです。

私は五年程前に脳梗塞を患いました。左半身に比較的軽い麻痺を生じましたが、幸い生活には余り不自由ありませんでしたが加齢と共に色々な症状が加わり、何とかこの先も現状維持出来ないかと案じていた時、地域包括センターの勧めで当所を知りました。

内容もリハビリを主体としたものなので迷う事なく通所する事にしました。

週二回午後からのコースに入りました。全員揃っても十名程で職員も四名程とこじんまりしています。

通所者も要支援以上の方ばかりで、殆んど運動器官が悪い方が多く各人程度の差はあれ麻痺や痛みを訴える方です。

いつもニコニコとはいきませんが、一同その症状に応じたりハビリを行っています。

指導介助してくれる職員の方も各人の症状に応じたケアを差別なく行ってくれます。

職員の方達が常に通所者の状況を考えて明るく接してくれるので私たちも体力的に無理の無い程度に頑張っています。

最高齢九十五才のおばあさんも一生懸命です。

職員の方もスケジュールが多く何かと多用ですが皆さん健康に留意されて明るく楽しいケアを続けて行かれるようお願い致します。

職員のあたたかき手に支えられ

今日もリハビリ無事終りたり

▽第1回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評△

第1回かながわ感動介護大賞には68件の応募があり、介護サービスを利用しているご本人からも24件の応募がありました。応募作品から読み取れる介護が必要となった原因は、変形性膝関節症や脳血管障害、癌など様々でした。病气や加齢等に伴う介護問題はいつ起こるかわからない、まさに、国民全体の老後の不安であることが確認できました。

介護が必要となった状況にたいして、家族や本人が混乱や苦悩を感じることは当たり前前の感情です。しかし、多くの作品から、時間の経過とともに病气や障害等を受け入れ、介護することの意味や介護者への感謝の気持ち率が率直に伝わってくることに理解できました。

ひとつひとつの作品から、介護の意味や介護にかかわる関係者の笑顔を想像していただければ幸いです。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長 峯尾 武巳

※各作品は、応募者の意向を尊重し、表現を変更せず掲載しました。

○ **かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿**（◎…座長）

東海大学 准教授	東 奈美
特定非営利活動法人	
神奈川県介護支援専門員協会 副理事長	石田 貢一
田園調布学園大学 准教授	遠藤 慶子
社団法人 神奈川県社会福祉士会	
福祉サービス第三者評価事業運営委員会 副委員長	高島さち子
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 会長	豊田 宗裕
神奈川県立保健福祉大学 教授	◎峯尾 武巳

○ **かながわ感動介護大賞実行委員会**（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県保健福祉局

○ かながわ感動介護大賞協賛団体

公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
神奈川福祉事業協会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
日本労働組合総連合会神奈川県連合会

○ かながわ感動介護大賞スポンサー企業（50音順）

株式会社えひめ飲料 東京工場
株式会社神奈川新聞社
工藤建設株式会社
トヨタカローラ横浜株式会社
日総ニフティ株式会社
ネットトヨタ横浜株式会社
横浜冷凍株式会社

○ かながわ感動介護大賞協賛企業（50音順）

株式会社ガスター
株式会社神奈川光商事
城南信用金庫
東海アルミ箔株式会社
株式会社メディケアー
株式会社安江設計研究所
株式会社八千代銀行

○ かながわ感動介護大賞協賛介護サービス事業者

(社会福祉法人 50音順)

愛生福祉会、足柄福祉会、厚木慈光会、阿部睦会、一廣会、
一燈会、永寿会、大磯恒道会、小田原福祉会、
恩賜財団神奈川県同胞援護会、偕恵園、
神奈川県社会福祉事業団、神奈川やすらぎ会、鎌倉静養館、
関西中央福祉会、共生会、敬心会、恵伸会、啓生会、幸済会、
公正会、倅和会、子の神福祉会、相模更生会、相模福祉村、
三育福祉会、慈正会、秀峰会、寿幸会、湘南愛心会、
湘南曾寿会、湘南福祉協会、祥風会、城山楽寿会、昂、清流会、
セイワ、積善会、そうあい、蒼生会、多心会、たちばな福祉会、
地域福祉協会、竹生会、智泉会、中心会、道志会老人ホーム、
藤心会、東洋会、藤嶺会、七葉会、二津屋福祉会、
ハマノ愛生会、東の会、福寿会、富士美、ふるさと自然村、
峰延会、母子育成会、松緑会、睦愛会、雄飛会、湯河原福祉会、
横浜市福祉サービス協会、横浜社会福祉協会、横浜太陽会、
横浜長寿会、栗山会、麗寿会、若竹大寿会

○ かながわ感動介護大賞協賛介護サービス事業者

(その他)

医療法人財団 額田記念会、財団法人 日本老人福祉財団、
株式会社 エコーケアサービス、株式会社 オオクボ、
株式会社 サロンデイ、株式会社 翔栄、株式会社 フィルケア、
株式会社ユース、株式会社 若武者ケア、ワタミの介護株式会社、
アット・ケアサービス有限会社、
有限会社 サポート・ユー・トゥエンティワン、
有限会社 新丸子ケア・サービス、
有限会社 トモエヒューマンサポート、
有限会社 まごの手介護サービス、
かながわ西湘農業協同組合、合同会社MKウェルフェア

かながわ感動介護大賞実行委員会



神奈川県

保健福祉局福祉・次世代育成部高齢福祉課
〒231-8588 横浜市中区日本大通 1
電話(045)210-4846 (直通)